

# 小島・田迎・上通・河内 界限

(株)浜田醤油

(平成 13 年 12 月指定)

景観形成建造物

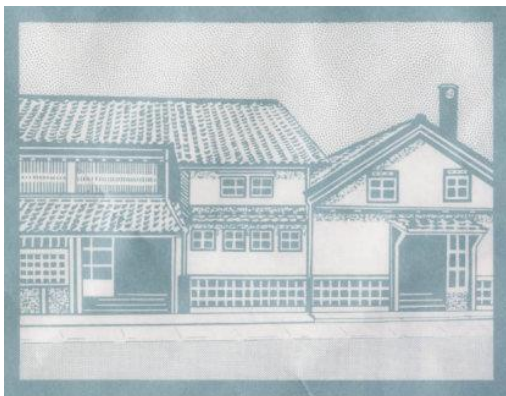


所在地 小島中町 107  
建築年代 明治 20 年  
構造 木造 2 階建て  
用途 醸造所

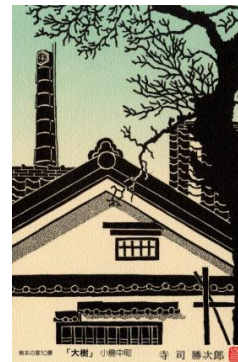


小島中町は、熊本市西部の白川下流と坪井川下流にはさまれた中州にあり、すぐ下流には、有明海の港である百貴港や要江港があります。江戸、明治には坪井川の水運を利用して、米や雑穀の集積が行われており、そのため、浜田醤油初代定二氏もこの小島中町で明治 20 年に醤油や味噌の醸造業を起こされたとのことです。

浜田醤油が建っている界限には、低層の木造住宅が連なり、昔のままの町並みが残っており、何か懐かしさを感じられる場所です。明治 20 年建築の浜田醤油は、腰を黒い下見板張り、上部はシックイ塗りの白壁、屋根は切妻の黒瓦とした、明治の面影を残す建物で現在も醸造所として活躍しています。月日を経て、ややすくんだ建物と煉瓦積の煙突は、セピア色のまちなみに調和し、小島中町の地域景観を特徴づける歴史的建造物です。



浜田醤油の贈答用包装紙



絵葉書『熊本の家 10景』より 寺田 勝次郎 作

# 木村家

(平成 13 年 12 月指定)

景観形成建造物



所在地 田迎 1-4-6

建築年代 江戸末期

用途 住宅

(在郷武家屋敷)

(内部の見学などはできません)

かや葺であった頃の木村家



木村家は、市内で数少ない在郷の武家屋敷です。同家の先祖は加藤清正に随って肥後にきたとされ、細川家には明和7年(1770)に出仕し、在御家人となりました。細川重賢が再興した犬追物の射場が田迎村に移された際に、木村家は藩主の休息所となり、以後、犬追物催し方となったそうです。旧浜線沿いにある田迎公民館の脇には犬追物の記念碑が建てられています。

建物は、曲屋造のかやぶき屋根で、棟には瓦をのせ、屋根の裾は瓦を葺くが、他の部分は、かや葺(ちょんまげ屋根というそうです)という在御家人の屋敷の姿を昔のまま伝えている貴重な建築物です。また、木村家は、肥後伝統の名花の栽培で有名であり、春は桜、初夏は、肥後シャクヤク、肥後ショウブの花々で屋敷の前畑は彩られています。花畑は、花の開花の時期には肥後シャクヤク園、肥後ショウブ園として開放されています。

# 紫藤邸

(平成 13 年 12 月指定)

景観重要建造物



所在地 水道町 3-32

建築年代 明治中期

構造 木造 2 階建て

用途 専用住宅

(内部の見学などはできません)



景観形成建造物指定銘板

